



(題字 時澤 貢 学長)

第409号
(平成11年 1月号)



▲大学入試センター試験：積雪の中、試験場へ急ぐ受験生（1月16日出）

目 次

年 頭 所 感 3 (時澤 貢学長)	人 事 異 動 8
関 係 法 令 4	学 内 諸 報
学 内 規 則 4	◆ 富山大学懇談会を開催 9
諸 会 議 6	◆ 寒中水泳大会 9
学 事	◆ 海外渡航者 10
◆ 大学入試センター試験を実施 7	職 員 消 息
	◆ 訃報 11
	主 要 行 事 12



▲ どか雪のキャンパス（一晩で30cmの積雪）
（平成11年1月7日早朝）

年 頭 所 感

年 頭 の あ い さ つ

富山大学長 時 澤 貢

平成11年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

21世紀の幕開けまで残すところ2年になりました。昨年10月大学審議会から、過去10年間の大学改革を総括した答申「21世紀の大学像と今後の改革方針について」が公表されました。この中には、多くの方向性が示されています。特に21世紀初頭に求められる大学改革の基本理念として、1) 課題探求能力の育成、2) 教育研究システムの柔構造化、3) 責任ある意思決定と実行、4) 多元的な評価システムの確立の4項目があげられています。

本学では、この答申の4つの基本理念に沿って、昨年来、大学改革に全学で取り組み、改善に努力しているところです。

21世紀へ向けて、我が国は、科学技術創造立国と文化立国を目指しています。資源が乏しく、人口の少子高齢化が急速に進んでいる我が国が、国際社会の中で競争力を維持し、活力あふれる社会を築いていくためには、環境の保護と経済の成長を両立させながら「持続可能な開発研究」の促進を図り、歴史や文化を通じて、人と人との繋がりを大切に、豊かで潤いのある社会の実現を図っていく必要があると思います。

我が国の目指す方向を踏まえつつ、富山大学においても、大学の特色を創出し、発展させていかなければなりません。

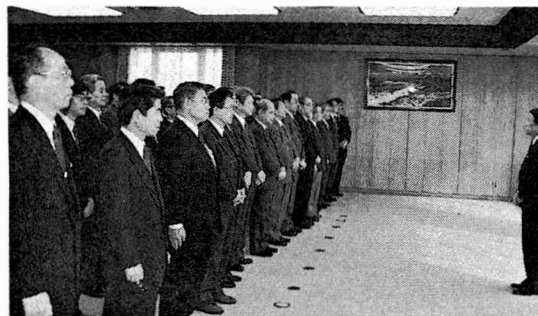


本年は、引き続き、教育改革、研究の高度化、大学院の整備充実、学生の厚生補導、国際交流の推進、地域社会との連携、キャンパスプラン及び施設整備問題等、全学的に山積する諸課題に対し積極的に取り組み、一つでも多く解決し、具体的に実行に移していくことを願っております。

本学にとって今年、創立50周年の記念すべき年となります。この節目は、過去の反省にたち、新世紀に向けて国立大学の現状を直視するならば、極めて重要な転換期であると実感しております。

未来に対して絶えまざる希望をもち、そして明るく前向きに日々精進することによって、その目標が達成できる、その成果がつまり、個性に輝く大学の未来創造であると考えております。

富山大学の構成員の皆様方のご理解とご協力をお願い申しあげ、新春のご挨拶とします。



関 係 法 令

(省 令)

- 児童手当法施行規則の一部を改正する省令（厚生8）
（平11. 1. 11 官報号外第3号）
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（文部1）
（平11. 1. 18 官報第2546号）

(規 則)

- 人事院規則10-11（育児又は介護を行う職員の深夜勤務の制限）の一部を改正する人事院規則（人事院10-

11-1）（平11. 1. 20 官報第2548号）

- 人事院規則9-8（初任給，昇格，昇給等の基準）の一部を改正する人事院規則（同9-8-37）
（平11. 1. 29 官報第2555号）
- 人事院規則10-7（女子職員及び年少職員の健康，安全及び福祉）の一部を改正する人事院規則（同10-7-4）（同上）

学 内 規 則

富山大学事務電算化委員会規則の一部改正

富山大学事務電算化委員会規則の改正理由

富山大学における事務処理の改善，合理化及び行政サービスの質的向上を図り，全学的な事務情報化を推進するため，所要の改正を行う。

富山大学事務電算化規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成10年10月20日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学事務電算化委員会規則の一部を改正する規則

富山大学事務電算化委員会規則（昭和54年12月21日制定）の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

富山大学事務情報化推進委員会規則

第1条中「富山大学事務電算化委員会」を「富山大学事務情報化推進委員会」に改める。

第2条を次のように改める。

(目 的)

第2条 委員会は，本学における事務の情報化（以下「事務情報化」という。）に関し，次の事項を審議する。

- (1) 事務情報化の推進及び実施計画に関すること。

- (2) 事務情報化に伴う利用計画に関すること。

- (3) 事務情報化に伴う安全対策，信頼性確保に関すること。

- (4) 事務における情報基盤の整備に関すること。

- (5) その他事務情報化に関し重要な事項

第5条第2項中「事務電算化」を「事務情報化」に改める。

第6条中「庶務課，人事課，主計課，経理課，施設課及び学生課の課長補佐並びに企画室の室長補佐」を「課長補佐，室長補佐，事務長補佐及び入試課専門員」に改める。

附 則

この規則は，平成10年10月20日から施行する。

富山大学電気工作物保安規則の一部改正

富山大学電気工作物保安規則の改正理由

電気事業法の改正に伴い、富山大学における管理体制を整備するため、所要の改正を行う。

富山大学電気工作物保安規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成10年12月 1 日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学電気工作物保安規則の一部を改正する規則

富山大学電気工作物保安規則（昭和41年3月15日制定）
の一部を次のように改正する。

寺町団地	富山市寺町	学生寄宿舍	6,600V	〃
------	-------	-------	--------	---

附 則

この規則は、平成10年12月1日から施行する。

別表第1に次のように加える。

富山大学放射性同位元素総合実験室核燃料物質計量管理規則の制定

富山大学放射性同位元素総合実験室核燃料物質計量管理規則の制定理由

放射性同位元素総合実験室において国際規制物資である劣化ウランを研究用として使用するに当たり、これの適正な計量及び管理を行うため。

富山大学放射性同位元素総合実験室核燃料物質計量管理規則を次のとおり制定する。

平成11年1月7日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学放射性同位元素総合実験室核燃料物質計量管理規則

（目 的）

第1条 本規則は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（以下「法律」という。）第61条の8第1項の規程に基づいて、富山大学放射性同位元素総合実験室（以下「総合実験室」という。）にお

る法律第61条の3第1項の規定に定める国際規制物資の使用の承認（法律第76条に基づく）を得た全ての核燃料物質の計量及び管理（以下「計量管理」という。）に関する事項を定め、もって核燃料物質の適正な計量管理を確保することを目的とする。

（計量管理責任者）

第2条 総合実験室における核燃料物質の計量管理のために計量管理責任者を置くものとする。

2 総合実験室における計量管理は、計量管理責任者の責任のもとに行う。

3 総合実験室における計量管理責任者は、総合実験室長とする。

(核燃料物質計量管理区域の設定)

第3条 総合実験室における核燃料物質計量管理区域(以下「MBA」という。)は、総合実験室全体をもって設定し、計量管理はこのMBAを基礎として行う。

2 総合実験室のMBAの符号はK S J Vとする。

(受入れ、払出し及び廃棄に関する手続)

第4条 計量管理責任者は、核燃料物質の受入れ、払出し及び廃棄に立会い、当該受入れ、払出し又は廃棄の数量をその都度記録するものとする。

(消費、損失等に関する手続)

第5条 計量管理責任者は、消費、損失等により核燃料物質の増減が生じた場合には、当該増減の数量を毎月1回記録するものとする。

(事故損失に関する手続)

第6条 計量管理責任者は、事故により核燃料物質の損失が生じたとき又は生じたとみなされたときは、その都度数量を確定し、記録するものとする。

(記 録)

第7条 計量管理責任者は、第4条、第5条並びに第6

条の記録を作成し、作成後10年間総合実験室に保存するものとする。

2 前項の記録には次の各号に定める事項を記録するものとする。

- (1) 在庫変動の日付
- (2) 在庫変動の原因又は理由
- (3) 受入れ又は払出し事業所名及びMBA名
- (4) 供給当事国(日米協定の新旧の区分を含む。)
- (5) 核燃料物質の種類
- (6) 核燃料物質の数量

第8条 計量管理責任者は、供給当事国ごとの核燃料物質の種類別の在庫量に関する記録を毎月1回作成し、作成後10年間総合実験室に保存するものとする。

(報 告)

第9条 計量管理責任者は、法律第67条第1項及び国際規制物質の使用に関する規則第7条第19項の規定に基づく毎年1月1日から6月30日までの期間及び7月1日から12月31日までの期間の報告書が当該期間の経過後1ヶ月以内に科学技術庁長官へ提出されていることを確認するものとする。

附 則

この規則は、平成11年1月7日から施行する。



第2回将来計画委員会(1月8日)

(審議事項)

- (1) 本学の理念について
- (2) その他

(1) 本学の理念について

(2) その他

第111回構内交通対策委員会(1月19日)

(議 題)

- (1) 構内交通対策委員長の選出について
- (2) その他

第2回生涯学習教育研究センター運営委員会(1月21日)

(議 題)

- (1) 生涯学習教育研究センター教員の任期制について
- (2) 公開講座専門委員会委員の選出について
- (3) その他

第9回事務協議会(1月19日)

(議 題)

当面の諸課題について

第11回部局長懇談会(1月22日)

(議 題)

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

第3回将来計画委員会(1月21日)

(審議事項)

第13回評議会(1月22日)

(審議事項)

- (1) 富山大学学長補佐設置要項の制定について
 (2) その他

第3回大学改革推進委員会（1月22日）

（議 題）

- (1) 専門委員会の検討状況について
 (2) その他

第2回黒田講堂運営委員会（1月25日）

（審議事項）

- (1) 委員長の選出について
 (2) 富山大学黒田講堂使用規則の改正(案)について
 (3) その他

第8回学生生活協議会（1月26日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度入学合格者へのダイレクトメール送付にかかるとあて名の書き写しについて（継続）
 (2) 平成11年度入学生行事日程(案)について
 (3) 「平成9年度自己点検評価報告書における「改善を必要とする重点項目」の検討について（付託）」について
 (4) その他

第112回構内交通対策委員会（1月28日）

（議 題）

- (1) 富山大学五福地区交通安全会について
 (2) 自己点検評価による付託事項について
 (3) その他

第6回教務委員会（1月28日）

（審議事項）

- (1) 転学部・転学科制度の改善について
 (2) 多様な学生像に対応した教育システムの確立について

第4回国際交流委員会（1月29日）

（審議事項）

- (1) 富山大学国際交流事業基金による平成11年度事業について
 (2) その他

第3回学寮委員会（1月29日）

（審議事項）

- (1) 寮生からの要求等について
 (2) 入寮選考について



大学受験の第一関門

平成11年度大学入試センター試験を実施

— 本学をはじめ5試験場（県内） —

平成11年度大学入試センター試験が去る1月16日(出)、17日(回)の2日間にわたり全国一斉に行われました。共通一次学力試験から衣替えして10回目となった今回の全国の志願者は、580,064人で昨年より17,207人の減少となりました。

富山県内での志願者は、18歳人口の減少傾向等を受け、昨年より112人少ない5,762人と4年連続の減少となり、試験は本学をはじめ富山医科薬科大学、富山県立大学、高岡法科大学及び富山国際大学の5試験場で実施されました。このうち、本学の受験者は3,962人で、各学部5試験場にわかれて受験しました。

積雪の中、第1日目は曇後雨となりましたが、2日目は好天に恵まれ、2日間にわたる試験は交通機関の遅滞もなく予定どおり実施されました。

なお、本学及び全国の受験状況は次のとおりです。



▲緊張した面持ちで試験開始を待つ受験生

平成11年度大学入試センター試験受験状況

期 日	教 科	富山大学試験場			全 国 集 計		
		志願者数	受験者数	受 験 率	志願者数	受験者数	受 験 率
1月16日(土)	外 国 語	3,962人	3,818人	96.4%	580,064人	527,664人	91.0%
	地 理 歴 史	3,962	3,386	85.5	580,064	389,093	67.1
	数 学 ①	3,962	3,204	80.9	580,064	389,159	67.1
	数 学 ②	3,962	3,013	76.0	580,064	344,384	59.4
1月17日(日)	国 語	3,962	3,764	95.0	580,064	500,231	86.2
	理 科 ①	3,962	2,975	75.1	580,064	310,836	53.6
	理 科 ②	3,962	1,581	39.9	580,064	213,944	36.9
	公 民	3,962	2,393	60.4	580,064	260,856	45.0

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 ・ 官 職	異 動 内 容
採 用	11. 1. 11	近 藤 俊 彦		事務補佐員(附属図書館情報サービス課情報サービス係)
	〃	高 山 恭 一		〃
	〃	油 井 晶 代		〃
	〃	熊 谷 さおり		〃
	〃	島 先 厚 至		〃
	〃	大 橋 正 浩		〃
	〃	中 根 一 剛		〃
	〃	加 藤 奏		〃
	11. 1. 18	高 松 典 子		〃
	11. 2. 1	松 井 輝 代		臨時用務員(教育学部附属学校炊婦)
	〃	中 山 拓 也		技術補佐員(総合情報処理センター)
	〃	沖 野 浩 二		〃
	〃	園 田 敦		〃
	〃	宮 下 友 宏		〃
	〃	潟 辺 美由紀		〃
〃	布 村 紀 男		〃	
昇 任	11. 2. 1	堀 江 典 生	助 手 東北大学東北アジア研究センター	講 師 経済学部(経済学科比較経済論)
辞 職	11. 1. 31	山 根 祐 子	事務補佐員(附属図書館情報管理課雑誌情報係)	辞 職
	〃	辻 美智子	臨時用務員(教育学部附属学校炊婦)	〃

学 内 諸 報

富山大学懇談会を開催

第1回富山大学懇談会を、去る1月18日(月)に市内の名鉄トヤマホテルにおいて開催しました。

この懇談会は、教育研究及び管理運営の一層の充実と発展を期して、学外有識者の意見を聞くため設置したもので、当日は委員12人のうち、井上放送大学学園理事長をはじめ松尾名古屋大学長、中冲富山県知事など経済界・教育団体等から7人の計10人、大学側から時澤学長以下水上事務局長、部局長など12人が出席しました。

懇談会は、①大学の現状、②大学の改革推進状況、③大学の今後の課題等について大学側から説明の後、意見交換を行い、「大学の理念に基づいて大学が特色を出すことが必要」、「大学が主体的判断と責任により意思決定をスピーディーに行い、諸施策を実行に移していく必要がある。」、「富山大学の特徴、ユニークな取り組みが

地域住民にわかるように、広報をより積極的に行うべきである。」など貴重な意見が出されました。

なお、この懇談会は、今後、年に1、2回の開催を予定しています。



▲貴重な意見が出された懇談会

／ 第30回富山大学寒中水泳 ／

富山大学の名物行事となっている水泳部主催（後援：体育会）の第30回寒中水泳が、去る1月23日(土)午後2時から本学プールにおいて行われました。

開会宣言、大学歌合唱、能登谷学生部長の挨拶、体育会委員長挨拶の後、水泳部主将の檄文読上げに続き水泳部員が勢いよくバケツで水をかぶり、応援団や吹奏楽部の応援の中、リレー方式で次々とプールへ飛び込み、プールサイドの女子学生等から熱い声援を受けていました。

その後、ヨット部、合気道部、剣道部、サイクリング部など次々とプールへ飛び込み水しぶきを上げ、中にはカッパやうさぎ、赤ふんどし姿などの仮装も加わり、周囲の感動と爆笑で大会を盛り上げていました。

泳ぎ終えた学生達は、準備された豚汁などで冷えた体を温め、水温6度の体験を「息が止まった。」「水が痛

かった。」などお互いの健闘に満足感と連帯感に浸っていました。

最後に、応援団OBも加わり立ち泳ぎを披露し、水泳部全員で部歌を合唱しました。



(海) (外) (渡) (航) (者)

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	理学部	教授	東川和夫	カナダ	複素有界領域の幾何学的解析構造についての共同研究	11. 1. 3 } 11. 1.17
	工学部	助教授	長谷博行	中華人民共和国	ICMI (マルチモーダルインターフェース国際会議) に出席, 研究発表	11. 1. 4 } 11. 1. 8
	〃	文部技官	丸山博	〃	〃	〃
	理学部	助教授	川田邦夫	ドイツ	グリーンランド・サミット深層コア解析による氷床流動と気候変動の研究	11. 1. 6 } 11. 1.17
	総合情報処理センター	助教授	高井正三	アメリカ合衆国	朝鮮古書データベースの構築等に関するレビューを受けるため	11. 1.19 } 11. 1.27
	人文学部	助教授	竹内 潔	フランス 中央アフリカ	APFTとの研究連絡, バギン周辺での現地調査, 研究打合せ	11. 1.28 } 11. 3. 4
海外研修	工学部	教授	米田政明	中華人民共和国	ICMI (マルチモーダルインターフェース国際会議) に出席	11. 1. 4 } 11. 1. 8

職 員 消 息

訃 報

富山大学名誉教授（元富山大学長） 林 勝次氏逝去



本学名誉教授（元富山大学長）林 勝次氏が、平成11年1月6日に逝去されました。享年91歳。

同氏は、昭和5年3月石川県師範学校第二部を卒業、石川県公立学校訓導として勤務された後、同12年3月日本体育会体操学校高等科生理専攻部を卒業され、熊本県立第一高等女学校嘱託（常勤）、同校教諭、金沢高等工業学校生徒指導主事補、同校助教授、姫路高等学校助教授、富山高等学校教授を歴任された後、同24年6月富山大学発足と同時に同助教授、同34年5月同教育学部教授となられ、同48年4月停年により退職されました。この間、昭和40年12月から同44年3月まで教育学部附属中学校長、同44年3月から同48年3月まで教育学部長及び評議員を併任されるなど本学の発展充実に貢献されました。これらの功績により、昭和48年4月富山大学名誉教授の称号が授与されました。その後、同年6月には、大学行政に関する高い識見と秀でた手腕と、円満なる人格を有する優れた教育研究者として富山大学長に迎えられ、同54年6月任期満了により退職されました。

富山大学長を退職後、昭和55年7月金沢女子短期大学長に就任、同60年5月には学校法人金沢女子短期大学理事長となられ、同61年12月には北陸地方で初めての4年制女子大学である金沢女子大学を新設されるなど同法人の発展充実に貢献されました。同62年4月新設の金沢女子大学初代学長に就任、同法人理事長及び

同大学長として同大学及び短期大学の整備充実に尽力されました。平成3年5月に同法人理事長及び同大学長を辞されましたが、同法人の発展に尽くした功績により理事会から学校法人金沢女子大学学園長を委嘱されるなど私学教育の充実発展にも多大なる貢献をされました。

また、昭和56年10月から平成5年10月まで石川県金沢市教育委員会教育委員に就任、特に、昭和58年1月からは同委員会委員長として、地方教育の充実発展に寄与されました。

同氏は、60有余年の長きにわたり教育者として精励され、その間、学生等の教育に専念、格調の高い講義と熱心な実習指導等により数多くの有為な人材を社会に送り出されたほか、富山大学長として、また学校法人金沢女子大学理事長・学長等として地域社会に貢献する大学創りに優れた手腕を発揮され、各々の大学の充実発展に尽力されました。

また、研究面にあつては、体育生理学において、特に登山を健全なスポーツとして育成するため実証的研究を立山連峰等高地山岳系において行い、種々の困難を伴いながらも、昭和47年12月永年にわたる研究の成果を「高地における運動生理学的研究」としてまとめ、金沢大学から医学博士の学位を授与されました。この論文は、観光政策による交通の発達から、高地への登山が極めて短時間にできるようになり、登山人口が急激に増加した結果、遭難事故の頻発にもかかわらず、多種多岐にわたる人々が入山するようになったため、これらの人々について、男女別、年齢別に人体における変化を血圧と脈拍に、そして高地条件が生理的機能に及ぼす影響について研究されたもので、特に北アルプス、中でも立山・剣岳で発生した幾多の山岳避難の実態を究明され、遭難は登山者の山に対する科学的研究と注意によって未然に防止されることも証明されま

した。これらの成果は、登山指導者、大学山岳部等の関係者によって高く評価され、安全登山の指針とされるに至っています。

このほか、スポーツ環境における空気汚染の調査・研究等を行い、我が国の環境衛生に注意を喚起する等多大な成果をあげられました。

教育行政面にあつては、教育学部附属中学校長として、校舎の新築・学級増加・体育館建設等、附属学校の整備充実と「主体性をもった教育の実践」に成果を挙げられるなど実験学校の使命達成に努力され、また教育学部長として、幼稚園教員養成課程の新設、幼児教育の充実を図られるなど学部の発展に力を尽くされました。また、教育学部長在任中は、たまたま全国的な大学紛争の時期に当たり、これの正常化のため献身的な努力を続けられ、本学の紛争解決に導いた功績は高く評価されています。

さらに、富山大学長として2期6年間に在任され、教育学部附属養護学校、経済学部経営学科、和漢薬研究所及び保健管理センターの新設、文理学部改組による人文学部及び理学部の設置を実現されるなど本学の整

備充実に尽力されたほか、富山県民から熱望されていた医科大学の設置にあたっては、創設準備大学長として将来を見据えた英断をもって、富山大学薬学部、和漢薬研究所の新設大学に移行等について大学内の意見集約にその指導力を発揮され、新設大学としては例のない複数学部をもつ富山医科薬科大学の創設に大きく貢献されるなど、富山県内における高等教育の充実に大きな足跡を残されました。

他方、大学外にあつては、学識経験者の委員として、富山県山岳遭難防止対策審議会委員、文部省登山研究所運営委員会委員、富山県産業教育審議会委員、富山医科薬科大学参与、富山地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員、富山県総合開発審議会委員、石川県金沢市教育委員会教育委員、同委員長にそれぞれ就任され、国及び地方自治の発展に寄与され、さらには、富山体育会会長、全国大学保健管理協会理事、国立大学協会理事、全国大学体育連合会北陸支部長等として棋界に多大な貢献をされました。

ここに、同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

主 要 行 事

本 部

- 1月7日 第6回大学改革推進委員会管理運営専門委員会
大学改革推進委員会委員長と3専門委員長との打合せ会
- 8日 第5回大学改革推進委員会情報公開専門委員会
第6回廃液等問題検討委員会
- 11日 第6回大学改革推進委員会教員人事専門委員会
- 12日 北陸地区国立学校等人事事務研修に係る研修担当係長会議（金沢大学）
- 14日 第4回セクシュアル・ハラスメント等対応検討委員会
第9回教養教育推進特別委員会
- 16日～17日 大学入試センター試験

- 18日 第1回富山大学懇談会（名鉄トヤマホテル）
- 20日 第4回国際交流委員会学術交流部会
第7回大学改革推進委員会管理運営専門委員会
教養教育委員会3専門委員長打合せ
- 21日 第6回教養教育委員会実施専門委員会
- 22日 第7回廃液等問題検討委員会
富山県リカレント教育推進事業富山大学運営委員会
- 26日 平成11年国家公務員給与等実態調査説明会（金沢広坂合同庁舎）
第13回国際交流委員会留学生部会
- 27日 第10回教養教育推進特別委員会
- 28日 第6回将来計画委員会ワーキンググループ会議
- 29日 第6回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会

人 文 学 部

- 1月6日 教授会
 8日 学部情報処理委員会
 11日 学部国際交流委員会（持ち回り）
 20日 学部国際交流委員会（持ち回り）
 学部将来計画委員会
 21日 学部入学者選抜方法検討委員会
 22日 学部教務委員会
 25日 学部特別昇給委員会
 26日 学部予算委員会
 27日 教授会
 教授会（人事）
 研究科委員会

教 育 学 部

- 1月7日 学部将来計画委員会
 8日 学部教務委員会
 学部研究室等配置検討委員会
 学部入学試験委員会
 附属小学校，附属中学校，附属養護学校及び
 附属幼稚園第3学期始業式
 13日 学部就職指導委員会
 教授会
 人事教授会
 14日～21日 附属小学校及び附属中学校入学願書受付
 25日 教育学部長候補者選挙委員会
 27日 学部将来計画委員会
 人事教授会
 28日 平成11年度附属小学校入学者発育検査
 29日 日本教育大学協会第一常置委員会（東京学芸
 大学）
 31日 平成11年度附属中学校入学者第1次選考（学
 力検査）

経 済 学 部

- 1月12日 学部教務委員会
 学部就職指導委員会
 13日 学部国際交流委員会
 人事教授会
 研究科委員会
 教授会

- 14日 生涯学習・広報委員会（持ち回り）
 18日 将来構想等検討委員会（持ち回り）
 20日 学部自己点検評価委員会
 財務委員会
 学部入学試験委員会（持ち回り）
 21日 就職ガイダンス（3年生対象）
 26日 学部教務委員会
 27日 総務委員会
 人事教授会
 教授会

理 学 部

- 1月6日 教官懇談会
 7日 学部図書委員会
 11日 学部予算委員会
 学科長会議
 学部学生生活委員会
 13日 理工学研究科博士前期課程理学部会
 教授会
 教授会（人事）
 20日 学部教務委員会
 学部施設委員会
 25日 学部就職指導委員会
 26日 学部入試改善委員会
 27日 学部予算委員会
 学科長会議
 29日 理工学研究科博士前期課程理学部会教務検討
 小委員会

工 学 部

- 1月7日 学部カリキュラム検討小委員会
 機器分析センター運営委員会
 8日 電子広報委員会
 学部運営委員会
 12日 大学入試センター試験説明会
 13日 教授会
 専任教授会
 理工学研究科博士前期課程工学部会
 工学研究科博士後期課程委員会
 20日 講演会（演題：原子間力顕微鏡（AMF）で
 何が見えるか？
 講師：森田清三大阪大学大学院工学

研究科教授)

- 21日 学部施設整備委員会
- 25日 学部図書委員会
- 27日 工学研究科委員会
- 理工学研究科博士前期課程工学部会

地域共同研究センター

- 1月22日 先端技術講演会
(演題：Si表面における金属吸着による超構造
講師：V, G, Lifshits
ロシア科学アカデミー極東支部自動制御研究所半導体マイクロエレクトロニクス科学技術センター長)

生涯学習教育研究センター

- 1月10日 東海北陸地区放送公開講座ラジオ講座スクーリング
- 14日 第2回公開講座専門委員会
- 23日~24日 公開講座「親子スキー教室」(牛岳スキー場)

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけほの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電 話 (24)1755(代)